

## ラーマヤナの主要登場人物の紹介とあらすじ (ver 1.7)

### 概要

ラーマヤナ Rāmāyaṇa. Rāma+ayana 「ラーマ王子の行程」の意。ヴァールミーキ作とされるサンスクリット語全 7 編 (2 万 4 千詩節) が標準的なテキストとされるが、インド・東南アジアに無数のテキストが存在する。原型は前 2 世紀頃に成立、2 世紀頃に現在の形が完成。ラーマをヴィシュヌ神の転生とする設定や第 7 編は後期に付加されたと推測されている。

物語 (ストーリー) はトレーター・ユガの時代に設定されている。ラーマ王子はヴィシュヌ神の 7 番目の転生とされる。パラシュラーマは同じく 6 番目の転生。ラーマの昇天をもってトレーター・ユガが終わり、ドヴァーパラ・ユガが始まる。ラーマはアヨーディヤを王都とするコーサラ王国の王子。「太陽族」の家系。

物語は、ヴァールミーキ仙がラーマの二人の息子たちに父ラーマの事績として詠って聞かせたものを、息子たちが記憶し、ラーマ王の前で詠唱したものであると第 7 編の中で説明。

### 登場人物 (登場順と血縁関係による。読みはサンスクリットによる。)

ダシャラタ Daśaratha	コーサラ国の王。ラーマの父。
ラーマ Rāma	コーサラ国の王子。ダシャラタ王とその第 1 カウサリヤーの息子。
バラタ Bharata	ラーマの弟。第 2 王妃カイケーイー妃の息子。
ラクシュマナ Lakṣmaṇa	ラーマの弟。第 3 王妃スミトラー妃の息子。シャトルグナと双子。
シャトルグナ Śatrughna	ラーマの弟。第 3 王妃スミトラー妃の息子。ラクシュマナと双子。
ヴィシュヴァミトラ Viśvāmitra	聖仙 (ルシ)。ラーマの師。
ジャナカ王 Janaka	ヴィデーハ国の王。シーターの父。
シーター Sītā	ヴィデーハ国の王女。ジャナカ王の娘。
パラシュラーマ	「斧を持ったラーマ」の意。クシャトリヤに復讐するバラモン戦士。
ラーヴァナ Rāvaṇa	ランカー島 (スリランカ) の羅刹 (Rākṣasa) の王。十面二十臂。別名ダシャムカ (Daśamukha 十の顔) ダシャカナンタ (Daśakanṭha 十の首)
シュールパナカー Śūrpanakhā	ラーヴァナの妹。羅刹。
ヴィビーシャナ Vibhīṣana	ラーヴァナの弟。羅刹
クンバカルナ Kumbhakarna	ラーヴァナの弟。羅刹。
インドラジット Indrajit	ラーヴァナの息子。羅刹。
ヴァーリン Vālin	キシユキンダーの猿の王。スグリーヴァの兄。
スグリーヴァ Sugrīva	ヴァーリンの弟。
ハヌマーン Hanumān	スグリーヴァの配下の猿の大将。
ヴァールミーキ Vālmīki	仙人。『ラーマヤナ』の作者。
クシャ Kuśa	ラーマとシーターの息子。ラヴァと双子。
ラヴァ Lava	ラーマとシーターの息子。クシャと双子。
ジャターユス Jatāyus	秃鷹。ジャナカ王の友。
アグニ Agni	火神。

### あらすじ

#### 第 1 編 「少年の巻」

コーサラ国王ダシャラタはヴィシュヌ神の化身であるラーマなど 4 人の王子を得た (カウサリヤー妃からラーマ、カイケーイー妃からバラタ、スミトラー妃からラクシュマナとシャトルグナ)。ヴィシュヴァミトラ仙の薫陶を受けたラーマは、ジャナカ王の宮廷で開かれた婿選びの競技で優勝し、王女シーターと結婚する。ラーマはパラシュラーマを打ち負かす。

#### 第 2 編 「アヨーディヤの巻」

ダシャラタ王はラーマに王位を譲ろうとするが、カイケーイー妃の干渉にあって、バラタを王位につけること、ラーマを 14 年間森に追放することを余儀なくされる。ラーマは父の命にしたがい、シーター妃とラクシュマナに伴われてアヨーディヤの都を出るが、残された王は悲しみの余り絶命する。バラタはラーマを引き戻そうとするが拒絶され、ラーマから譲り受けた履き物を王座に置いてラーマの代理として統治する。

### 第3編「森林の巻」

ラーマたちは行者たちを邪魔する羅刹たちの退治に活躍する。シュールパナカーはラーマに懸想して拒絶されラクシュマナからは侮辱を受ける。彼女は復讐のため兄ラーヴァナにシーターをさらって妻にするようそそのかす。小鹿を使った奸計でシーターを誘拐したラーヴァナは、シーターを救おうとしたジャターユスを倒し、ランカー島に帰還する。失踪したシーターを探すラーマたちはキシュキンダーでスグリーヴァとその家来の猿たちに出会う。

### 第4編「キシュキンダーの巻」

ラーマはスグリーヴァが兄ヴァーリンから王国と妻を取り戻すのを手伝い、代わりにスグリーヴァの部下たちにシーター探索の援助をうける。ハヌマーンはランカー島にシーターが誘拐されたことを突き止める。

### 第5編「美しい巻」

ハヌマーンは海を飛び越えてランカー島へ渡り、シーターと接触し、ラーマの指輪を渡して救出が近いことを知らせる。ハヌマーンは羅刹たちに捕まるが、ラーヴァナの宮廷を火の海にしてラーマのもとに帰還する。

### 第6編「戦闘の巻」

ラーマたちは猿たちの力によって海に橋を架けてランカー島に攻め込む。ヴィビーシャナは兄を諫めるが聞き入れられず、ラーマに協力する。激しい戦いの末、ラーマはラーヴァナを倒し、ヴィビーシャナを王位につける。ラーマに貞操を疑われたシーターは火の中に身を投じるが、火神アグニが現れてシーターの潔白を証明する。一行はアヨーディヤーへ凱旋し、ラーマは王位につく。

### 第7編「最後の巻」

国民の間にシーターの貞操を疑う声が生じ、ラーマはシーターを森に追放する。シーターはヴァールミーキ仙の庵に滞在し、クシャとラヴァの双子を産む。ヴァールミーキ仙は二人に『ラーマーヤナ』を語って聞かせる。二人が物語を朗詠するのを聞いたラーマは、シーターに身の潔白を証明するよう求める。シーターが大地の女神を呼び出すと、女神はシーターを抱いて地中に消える。嘆き悲しむラーマは王位をクシャとラヴァに譲り、天界に昇ってヴィシュヌ神に戻った。

## 参考文献

- 青山亨 1994 「ラーマ、ラーヴァナ、ハヌマーンーポリフォニーとしての叙事詩とその英雄たち」『しにか』1月号. 5 (1): 62-67.
- 青山亨 1998 「インドネシアにおけるラーマ物語の受容と伝承」『ラーマーヤナの宇宙：伝承と民族造形』金子量重・坂田貞二・鈴木正崇・編. 春秋社.
- 青山亨 2014 「プランバナン寺院シヴァ堂のラーマーヤナ浮彫」『画像史料論』東京外国語大学出版会.
- 阿部知二・訳 1966 『ヴァールミーキ ラーマーヤナ』(世界文学全集 III-2) 東京：河出書房.
- 石井米雄・他編 1991 『インドネシアの事典』京都：同朋舎. とくに「ジャワ文学」「ラマ」「ラマヤナ」「ラワナ」「ワヤン」の項目.
- 岩本裕 1980 『ラーマーヤナ』第1巻. 東京：平凡社. とくに解題.
- 岩本裕 1985 『ラーマーヤナ』第2巻. 東京：平凡社. とくに解題.
- 宇戸清治 2014 「ラーマーヤナの変容：東南アジアの古典文学」東京外国語大学東南アジア課程編『東南アジアを知るための50章』明石書店.
- 河田清史 1971 『ラーマーヤナ』(レグルス文庫) 全2巻. 東京：第三文明社.
- 中村了昭 2012-2013 『新訳 ラーマーヤナ』全7巻. 東京：平凡社.
- 福岡まどか 2016 『ジャワの芸能：その物語世界』スタイルシート.
- 松本亮 1982 『ワヤン人形図鑑』東京：めこん.
- 松本亮 1993 『ラーマーヤナの夕映え』東京：八幡山書房.
- 松本亮 1994 『ワヤンを楽しむ』東京：めこん.
- Gauri Parimoo Krishnan. 1997. *Ramayana: A Living Tradition*. Singapore: National Heritage Board.
- Richman, Paula, ed. 1991. *Many Rāmāyana: The Diversity of a Narrative Tradition in Southeast Asia*. Berkeley: University of California Press.

## 青山のブログ

<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/aoyama/>

## ラーマーヤナの芸能：ケチャ (ver. 1.4)

### ケチャ

#### 1. バリの舞踊芸能

- 1) kecak または cak (擬声語)
- 2) 日本語では「ケチャ」、「ケチャック」、「ケチャツ」(語末の k はカタカナでは表記不可能)
- 3) 観光パンフでしばしばモンキー・ダンス (monkey dance) と呼ばれる。音が猿の鳴き声に似ていること、ラーマーヤナのハヌマーンしばしば登場することが理由と推測される。

#### 2. 本来は、サンヒャン舞踊の男性合唱による伴奏のこと。

- 1) 複雑な複合リズムで「cak, cak, cak」と声を出す。田んぼのカエルの声に喩えられる。ガムランの音の模倣もしくは代用と考えられている。
- 2) サンヒャン舞踊は、共同体から伝染病などの災厄を除去するためにおこなう宗教儀礼的要素の強い芸能。複数の種類がある。サンヒャン・ドゥダリの場合、初潮前の二人の少女が祖先または神、女神 (ドゥダリ) の精霊に憑依され、トランス状態で踊りをおこなう。

#### 3. 現在では、ラーマーヤナから取られた物語を演じる独立した舞踊芸能。

- 1) バリ在住のドイツ人画家ワルター・シュピース (Walter Spies) が、1931年にバリ島ブドゥル村でロケ撮影をおこなったドイツ映画『悪魔の島』(Insel der Dämonen, Dr. Friedrich Dalsheim と Victor Baron von Plessen の共同制作、1933年公開)のために、バリ人と協力して撮影のために従来のケチャをアレンジした芸能を創作した。
- 2) シュピースの貢献は、参加者の数を大幅に増やして円陣に座らせたこと、ハヌマーンの活躍を中心とするラーマーヤナのエピソードを取り入れたこと、とされている (Rhodius 1980: 37)。
- 3) 映画は、バリのリアルな描写と芸術性が調和した秀作として評価されている (Arnheim 1997: 198)。
- 4) 現在の観光客対象のケチャの原型は 1935年にボナ村で完成した。ケチャで有名なプリアタン村では 1966年にボナ村のスタイルを習って始めた。
- 5) 踊り手は、炎、風、揺れる椰子の木、海の波などを表現する。
- 6) 語りの言葉は古ジャワ語とバリ語である。古ジャワ語のテキストは古ジャワ語『ラーマーヤナ・カカウイン』に基づく。ラーマなどの中心人物は古ジャワ語で語るが、道化はバリ語で語る。

#### 4. バリにおけるラーマーヤナ

- 1) 「創られた伝統」としてのケチャは、生きた伝統である。

### 参考文献

- Arnheim, Rudolf. 1997. *Film Essays and Criticism*. University of Wisconsin Press, 1997.
- Bandem, I Made, and Frederik deBoer. 1995. *Balinese Dance in Transition: Kaja and Kelod*. 2d ed. Oxford University Press.
- de Zoete, Beryl, and Walter Spies. 1973. *Dance and Drama in Bali*. Kuala Lumpur: Oxford University Press.
- Hough, Brett. 1992. "Contemporary Balinese Dance Spectacles as National Ritual." *Working paper #74*, Monash University, Clayton, Australia.
- 伊藤俊治. 2002. 『バリ島芸術をつくった男：ヴァルター・シュピースの魔術的人生』(平凡社新書) 平凡社.
- 河野亮仙. 1994. 「ケチャ：芸能の心身論」 吉田禎吾・監修『神々の島バリ：バリ・ヒンドウの儀礼と信仰』春秋社, pp.115-132
- Orenstein, Claudia. 1998. "Dancing on Shifting Ground: The Balinese Kecak in Cross-Cultural Perspective". In Stanley Vincent Longman, ed. *Crosscurrents in the Drama: East and West*. University of Alabama Press, pp. 116-124.
- Picard, Michel. 1996. Bali: *Cultural Tourism and Touristic Culture*. Singapore: Archipelago Press.
- Rhodius, Hans and John Darling. 1980. *Walter Spies and Balinese Art*. W S Heinman. p.37
- Yousof, Ghulam-Sarwar. 1994. *Dictionary of Traditional South-East Asian Theatre*. Kuala Lumpur: Oxford University Press.
- Internet Movier Data Base. "Insel der Dämonen". <<http://www.imdb.com/title/tt0295019/>>

## ラーマヤナの芸能：ラーマキエン (ver. 1.0)

### ラーマキエン

1. タイ語版のラーマヤナ
  - 1) Ramakien (ラーマの栄光)
  - 2) チャクリ王朝ラーマ 1 世 (在位) のときにタイ語版のラーマ物語の作成が命じられた。
  - 3) 50,286 詩節
  - 4) ワット・プラケオ (エメラルド・ブッダ) 寺院のフレスコ壁画の典拠。
  - 5) 14,300 詩節に圧縮
  - 6) 仏教的性格をもつ。ラーマは菩薩である。
2. ナン・ヤイ (nang yai)
  - 1) 大型の影絵人形による芝居
3. コーン仮面劇 (khon)
  - 1) 宮廷の仮面劇

### 参考文献

Yousof, Ghulam-Sarwar. 1994. *Dictionary of Traditional South-East Asian Theatre*. Kuala Lumpur: Oxford University Press.



図 1 (左上)：ドイツ映画『悪魔の島』のポスター

(出典：<http://klbkultur.tumblr.com/page/51>)

図 2 (右上)：タイのコーン仮面劇。ラーヴァナとハヌマーンの戦い。

(出典：<http://www.britannica.com/EBchecked/media/3516/Ravana-the-demon-king-fighting-the-white-monkey-Hanuman-in>)

図 3 (下)：バリ島のケチャ

(出典：<http://sprungerxkhoem.blogspot.jp/2010/06/tari-kecak.html>)

ラーマヤナ登場人物の名前(サンスクリット・ジャワ語・タイ語対照表) (ver 3.2\_2015-04-02)

サンスクリット	説明	現代ジャワ語	現代タイ語
ダシャラタ Daśaratha	コーサラ国の王. ラーマの父.	ドソロト Dasarata	トッサロット Tosaroth.
ラーマ Rāma	コーサラ国の王子. ダシャラタ王とその第1王妃カウサリヤーの息子.	ロモ Rama. 王妃スコサルヨの息子. 別名ルゴウォ Regawa	ラーム Ram.
バラタ Bharata	ラーマの弟. 第2王妃カイケーイー妃の息子.	バロト Barata. 王妃ケカイの息子.	プロット Phrot.
ラクシュマナ Lakṣmaṇa	ラーマの弟. 第3王妃スミトラー妃の息子. シャトルグナと双子.	レスモノ Lesmana. 王妃スミトロの息子.	ラック Lak.
シャトルグナ Śatrughna	ラーマの弟. 第3王妃スミトラー妃の息子. ラクシュマナと双子.	サトルグノ. 王妃スミトロの息子.	サッタールト Satrud.
ヴィシュヴァーミトラ Viśvāmitra	聖仙 (リシ). ラーマの師.		ルーシーサラパン.
ジャナカ Janaka	ヴィデーハ国の王. シーターの父.	ジャノコ Janaka	チャノック Chanok.
シーター Sītā	ヴィデーハ国の王女. ジャナカ王の娘.	シント Sinta. 別名シト.	シーダー Sida.
ラーヴァナ Rāvaṇa	ランカー島 (スリランカ) の羅刹の王. 十面二十臂. 別名ダシャムカ (Daśamukha 十の顔) ダシャカント (Daśakanṭha 十の首)	ラウォノ Rahwana. アルンコの王. 別名ドソムコ Dasamuka.	トッサカン Tosakanth. ロンカーの王.
シュールパナカー Śūrpanakhā	ラーヴァナの妹. 羅刹.	サルポクノコ Sarpakenaka.	サムマナッカー Samanakha.
ヴィビーシャナ Vibhīṣana	ラーヴァナの弟. 羅刹	ウィビソノ Wibisana.	ピペーク Pipek.
クンバカルナ Kumbhakarna	ラーヴァナの弟. 羅刹.	クムボカルノ Kumbakarna.	クムパカン Kumpakan.
インドラジット Indrajit	ラーヴァナの息子. 羅刹.	インドラジット Indrajit.	インタラチット Intarachit.
ヴァーリン Vālin	キシュキンダーの猿の王. スグリーヴァの兄.	スバリ Subali.	パーリー Pali.
スグリーヴァ Sugrīva	ヴァーリンの弟.	スグリウォ Sugriwa.	スクリープ Sukrib.
ハヌマーン Hanumān	スグリーヴァの配下の猿の大將.	アノマン Anoman.	ハヌマーン Hanuman.
ヴァールミーキ Vālmīki	仙人. 『ラーマヤナ』の作者.		ワッチャマルキー.
クシャ Kuśa	ラーマとシーターの息子. ラヴァと双子.	クソ.	モンクット Mongkut.
ラヴァ Lava	ラーマとシーターの息子. クシャと双子.	ロウォ.	ロップ Lop.
ジャターユ Jatāyu	禿鷹. ダシャラタ王の友.	ジャタユ Jatayu.	サダーユ Sadayu.
アグニ Agni	火神.	ブロモ Brama (=ブラフマー神).	プロム Phrom.

松本亮 1982 『ワヤン人形図鑑』東京: めこん.

Meechai Thongthep. 1993. *Ramakien: The Thai Ramayana*. Bangkok: Naga Books.

R. Rio Sudibyo-prono. 1991. *Ensiklopedi Wayang Purwa*. Jakarta: Balai Pustaka.

「ラーマキエンの物語」 <http://www.itdaschool.jp/ramakien2.htm> [accessed 2007-10-28].

Wikipedia: Ramakien. <http://en.wikipedia.org/wiki/Ramakien> [accessed 2009-10-29].